

～ 平和への祈りと心の叫び ～

おきなわ写真 & 絵画 二人展

『琉球孤の島々』のリアルをみつめる
— 私たちは、このまま
戦争への道を辿るのか!? —

2026

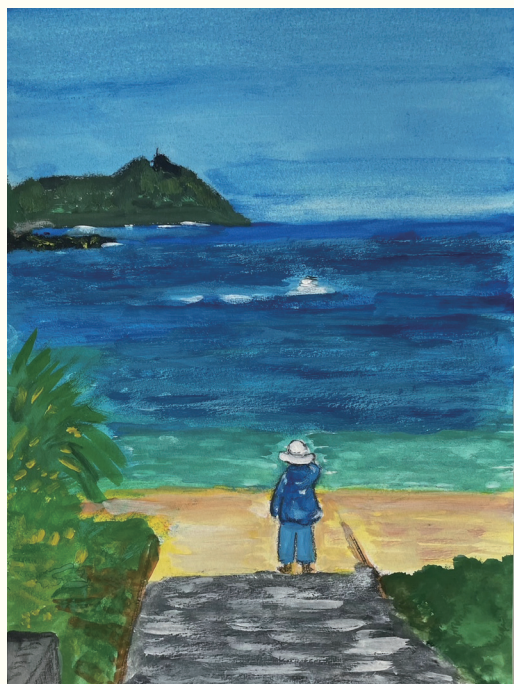
入場無料

8/20^木 – 8/25^火

木・日・月 9:30～18:00

金・土 9:30～20:00

最終日 9:30～16:00



絵画／島 しづ子（牧師）

福岡アジア美術館

福岡市博多区下川端町3-1（地下鉄 中洲川端駅 6番出口）
リバレインセンタービル8階 交流ギャラリー



写真／山本 英夫（フォトグラファー）

講演会 「 私たちは何を撮り、何を描いているのか? 」

講師：島 しづ子・山本 英夫

沖縄民謡演奏：八重山の唄 がちまやあ三線サークル

入場無料
先着100名限り

8/22^土

開場 13:30

14:00～16:30

福岡アジア美術館8階 あじびホール

主催：沖縄写真絵画二人展実行委員会（カトリック福岡教区いのち・平和・人権委員会 正義と平和・人権部門／
ゴスペルアクションin福岡／日本基督教団九州教区・沖縄教区との対話小委員会／東アジア平和センター・福岡／
福岡聖書研究会／福岡・戦争に反対する女たち／辺野古アクション・福岡）

後援：KBC／RKB毎日放送／TNCテレビ西日本／読売新聞西部本社／毎日新聞西部本社／西日本新聞社

協賛：あみの会／福岡地方バプテスト連合社会委員会／日本友和会

問い合わせ先：070-6594-5716（増井）／090-5948-3413（秀村）／Eメール：kamihaai.1958@gmail.com

【開催趣旨】 島 しづ子 より



2020年6月に慶良間諸島の渡嘉敷島に行った時、海と空の美しさに驚きました。そこで起こった集団強制死や軍隊慰安婦とされた方々の消息を告げるアリランの碑を見た時、おきなわの美しい海は悲しみを込めた美しさだと思いました。それから絵を描き始めました。おきなわで起こってることを知らせたいと願い、沖縄県、東京都、愛知県などで絵画の展覧会と講演会を開催してきました。

島 しづ子 プロフィール

1948年 長野県生まれ

1978年～2020年3月 名古屋市で牧師を務め、重度心身障がい者の地域支援施設を開設運営。

2009年 愛知県弁護士会人権賞受賞

2020年4月1日 日本キリスト教団沖縄教区うふざと伝道所牧師着任

主要著書「あたたかいまなざし－イエスに出会った女性達－」「イエスのまなざし－福音は地の果てまで－」「尊敬のまなざし」「見習い船長のまなざし」(いずれも燦葉出版社刊)

【開催趣旨】 山本 英夫 より



私達は、このまま戦争への道を辿(たど)るのだろうか？

そんなことはあってはならないはずです。ここ数年来、私は沖縄島、琉球諸島取材してきました。しかし、この国が対中戦争に向けた軍備を拡充してきたことは否めません。この流れは全国に広がっています。「武力＝正義」だとする米国等の大国に対して、「命どう宝」を育み、共に生きるため、私は平和に生きる歩みに寄与したい。皆様のご来場をお待ちしています。話し合える機会を創りたいと存じます。

山本 英夫 プロフィール 名護市在住・フォトグラファー

1951年東京生まれ、世田谷育ち。1960年代末から野鳥・山岳写真を撮り始める。1989年5月以降沖縄に通い始め、「基地の島」を巡る撮影を行ってきた。2004年以降、辺野古を定点として撮影。2005年～2013年まで、ほぼ毎年都内で写真展を開催。2011年から与那国島、石垣島、宮古島をも巡るようになる。2013年10月、名護市に居を移す。

日本リアリズム写真集団主催の全国公募写真展「視点」に、2011～14年、18年、19年、21～23年入選。すべて「基地の島 沖縄」をメインに撮影・制作。2024年8月22日～25日、フォトジャーナリズム展三重主催による「基地の島 琉球諸島・沖縄島のリアルとこの国の深層」を津リージョンプラザ展示室(三重県津市)で開催。2025年5月17日、島しづ子さんと写真&絵画2人展「だから、あきらめない 戦後80年の今－私たちの辺野古・大浦湾－」を名護市立中央図書館で開催。

2026年5月6日～12日には「『基地の島々』のリアルをみつめる－私たちは、このまま戦争への道を辿るのか?!」を名護市立中央図書館で開催した。